

2019年5月12日(日)朝10:10～ 主の復活前第4、自由交歓会等  
5月第2母の日共同主日礼拝式説教 日本アライアンス庄原基督教会

## 説教題：**裁くことからの解放**(2節)

聖書:マタイ 7章1～6節

<口語訳>

新約聖書9～ 頁

マタイ 7章1～6節

<新共同訳>

新約聖書11～ 頁

マタイ 7章1～6節

<新改訳第3版>

新約聖書11～ 頁

マタイ 7章1～6節<塚本訳>

新約聖書 ～ 頁

主題:主イエス様から賜った聖霊の導き

によって主の弟子たちは、主の名による  
神の罪からの救いを宣べ伝えたように、  
私たちも、福音を伝えたい。

序論；

- ◇**マタイ書**は、使徒**マタイ**が、ユダヤ人の立場で**王なる救い主(メシヤ)**なる**神の御子イエス・キリスト**を証言した記録です。
- ◇**マタイ5～7章**は、**神の御子イエス・キリスト様**の山上の垂訓あるいは説教と表現される箇所です。
- ◇本日は、**マタイ7章1～6節**も、**マタイ5章**の続きで、**神の御子イエス・キリスト様**を祝福のことば全体の中で理解したいとの思いで、「**裁き**」(1～6)が主題で、「**天の父なる神の座**」で、「**何をしてはいけないか**」(7:2)に「**焦点**」合せて、**御子イエス・キリスト様の思い**を感じたいと思います。
- ◇教会行事では、「**母の日**」で、去年は入院していて、「**母の日**」の礼拝をともに守ることができませんでした。
- ⇒「**母の日**」は、CSで長い間奉仕されたご婦人の記念会があり、娘さんが白色のカーネーションを列席者一堂に贈られたのが始まりと言われています。「**母の日**」の基本は、主に忠実に仕えた奉仕者を記念し、主を讃美せること。

本論；

◇本日、**マタイ書7章1～6節**から主の**使信**に**思い・心**をとめます。

◆**マタイ7章1～6節**；使徒**マタイ**は、**神の御子 イエス・キリスト様の「裁き」**への**思い**に焦点を合わせて**みことば**を語っています。

◇**1～6節**；**塚本訳**◆**裁くな<1～6>**

- 「1 (人を)裁くな、自分が(神に)裁かれないためである。
- 2 (人を)裁く裁きで、あなた達も裁かれ、(人を)量る量りで、あなた達も量られるからである。
- 3 なぜあなたは、兄弟の目にある塵が見えながら、自分の目に梁があるのに気付かないのか。
- 4 また、どうして兄弟にむかって、『あなたの目の塵を取らせてくれ』と言うのか。そら、自分の目に梁があるではないか。
- 5 偽善者！まず自分の目の梁を取ってのけよ。その上で、兄弟の目の塵を(取ってやれるなら、)取ってやったらよかろう。
- 6 (とはいえ、正しい判断は出来ねばならない。神に供えた肉など)神聖な物を犬にやるな。また真珠を豚に投げてやるな。豚はそれを足で

踏みつけ、向き直ってあなた達を噛み裂くかも知れない。」と、**使徒マタイ**は語っています。

◇**1～2節**；「(人を)裁くな、自分が(神に)裁かれないためである」、「(人を)裁く裁きで、あなた達も裁かれ、(人を)量る量りで、あなた達も量られる」と、「**裁くこと**」を「禁じておられます」。「(人を)裁く裁きで、あなた達も裁かれ、(人を)量る量りで、あなた達も量られる」と、「(人を)裁く裁きで、あなた達も裁かれ、(人を)量る量りで、あなた達も量られる」と、裁きを禁じる理由が語られています。

⇒「(人を)裁くな、自分が(神に)裁かれないためである」と、「裁く者」が、「神の座」に着くことを「**御子イエス・キリスト様**」は、望んでおられないのです。公的に裁判を起こすことも、日々の生活で、正しい、正しくないの判断をすることを禁じていることでもないのです。

⇒**ローマ6:17,18**、「神に感謝します。あなたがたは、かつては罪の奴隷でしたが、伝えられた教えの規範に心から服従し、罪から解放されて、**義の奴隷**となりました。」と、「裁きの座」に着くのは、**神**で、私たちは、**義の奴隷**です。

◇**3～5節**；「なぜあなたは、兄弟の目にある塵が見えながら、自分の目に梁があるのに気付かないのか」、「どうして兄弟にむかって、『あなたの目の塵を取らせてくれ』と言うのか。そら、自分の目に梁があるではないか」、「偽善者！まず自分の目の梁を取ってのけよ。その上で、兄弟の目の塵を（取ってやれるなら、）取って やったらよかろう」、「**目の梁**」を取ってのけることが、相手の「**目にある塵**」を除く次の作業になるのです。

⇒「**梁**」は、建築に欠かせない「**横木**」のことで、「**塵**」は、「木っ端みじん」の「**木っ端**」、木くずのことです。

⇒「**御子イエス・キリスト様**」は、**AO師**は、「私が憤慨して呪っている兄弟の罪と、神の目に映っている私の罪とこの二つを突き合わせて、そこから本当の霊的な衝撃を与えようとしておられるのです」、「イエス・キリストの贖いの血の力でわが罪を根こそぎ取り除いていただき、初めて人に仕えることも可能になる。」と、仰せで、2つの罪は、「**御子イエス・キリスト様の十字架**」によって除かれ、人にはできない。

◇**6節**；「(とはいえ、正しい判断は出来ねばならない。神に供えた肉など)神聖な物を犬にやるな。また真珠を豚に投げてやるな。豚はそれを足で踏みつけ、向き直ってあなた達を噛み裂くかも知れない」、「**犬**」や「**豚**」に「神聖なもの、真珠」を与えてはいけない、「**御子イエス・キリスト様**」は、仰せです。

⇒「**犬**」は、「**餌**」の価値がわからない、「**豚**」は、「**餌**」にあらぬものを与えられています。「投げてやる」も、「置いてやる」で、乱暴に与えているのではありません。「**犬**」や「**豚**」は、聖なるものを理解しない人々です。

⇒異邦人の女性を子犬と「**御子イエス・キリスト様**」が仰せられたので、異邦人と理解する方もありますが、**OA師**も、**SY師**も、教会の中に「聖なるもの」を理解し、受け入れない人々がいることを認めておられます。

⇒「**犬**」は、かみつくが語源だそうですし、「**豚**」は、元来綺麗好きで、泥に入るのは、寄生虫を除去して清潔な肌を保つのだそうです。

⇒人を一面だけ見て、即断せず、忍耐をもって判断させていただきたいと願います。

## 結論；

- ◇ **神**は、変わらない愛と思いやりの神です。
- ◇ **マタイ書**は、使徒**マタイ**が、**ユダヤ人**の立場で**王なる救い主(メシヤ)**なる**神の御子イエス・キリスト**を証言した記録です。
- ◇ **マタイ5～7章**は、**神の御子イエス・キリスト様**の**山上の垂訓**あるいは**説教**と表現される箇所です。
- ◇ 本日は、**マタイ7章1～6節**も、**マタイ5章**の続きで、**神の御子イエス・キリスト様**を祝福のことば全体の中で理解したいとの思いで、「**裁き**」(1～6)が主題で、「**天の父なる神の座**」で、「**何をしてはいけないか**」(7:2)に「**焦点**」合せて、**御子イエス・キリスト様の思い**を感じたいと思います。
- ◇ 「**母の日**」に限らず、教会の行事は、時代とともに変化していますし、一般社会では、「**母の日**」の由来まで遡る人は少ないのです。母への感謝と受けとめつつも、教会を愛し、忠実に仕えて下さった方々を記念したい。
- ◇ **マタイ7章1～6節**からは、**罪でなく、義の奴隷**とされている**神の恵み**を覚えたいのです。

- ⇒「**宝のあるところに心もある**」(6:21)と学びましたが、「なぜあなたは、兄弟の目にある塵が見えながら、自分の目に梁があるのに気付かないのか」との「**御子イエス・キリスト様**」のみことばを「**犬・かみつく**」や「**豚・真珠を宝と理解できない**」生き方が、誰の心にも住みついていることを認め、裁かず、**神の愛**を受け、「(人を)裁く裁きで、あなた達も裁かれ、(人を)量る量りで、あなた達も量られる」との謙虚さを身につけさせていただきたいと願います。
- ⇒忘れてはならないことは、教会が、「**御子イエス・キリスト様の霊的なからだ**」とされていることです。「**兄弟愛**」を忘れたら、教会は、「**強盗の巣**」になっていしまいます、何でも利用さえすればよい生き方に陥るのです。
- ⇒「**相手を裁くな**」、「**神の愛の目**」で見て、判断せよ、です。
- ⇒伝道者パウロは、自分が、「**犬**」や「**豚**」になっていると認識した時、「**乳飲み子**」・「**肉の人**」と呼んで、コリントの教会に猛省を促しています(Iコリント13:1~3)。